

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第38週 2025年9月15日（月）～2025年9月21日（日）2025年9月25日作成

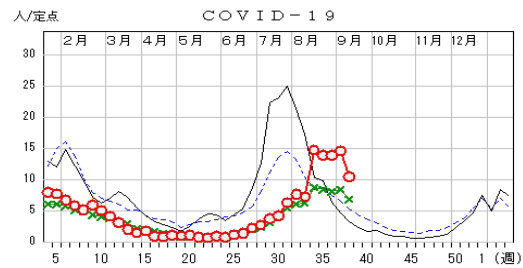
☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1）新型コロナウイルス感染症

第38週の報告数は536人で、前週より209人少なく、定点当たりの報告数は10.51であった。

年齢別では、10～19歳（149人）、10歳未満（104人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、対馬保健所（19.67）、県北保健所（17.67）、県南保健所（14.60）であった。

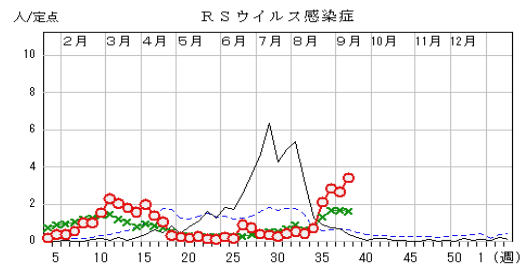


（2）RSウイルス感染症

第38週の報告数は106人で、前週より24人多く、定点当たりの報告数は3.42であった。

年齢別では、1歳（44人）、1歳未満（40人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（12.33）であった。

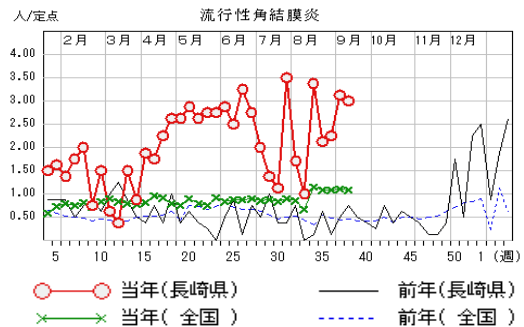


（3）流行性角結膜炎

第38週の報告数は24人で、前週より1人少なく、定点当たりの報告数は3.00であった。

年齢別では、30～39歳（6人）、1歳（3人）、50～59歳（3人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（8.00）、西彼保健所（7.00）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数に変更されました）

☆上位3疾患の概要

【新型コロナウイルス感染症】

第38週の報告数は536人で、定点当たり報告数は10.51でした。地区別にみると、対馬地区（19.67）、県北地区（17.67）、県南地区（14.60）は他の地区より多くなっています。ほとんどの地区で前週より減少していますが、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【RSウイルス感染症】

第38週の報告数は106人で、定点当たりの報告数は3.42でした。地区別では、県南地区（12.33）が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

【流行性角結膜炎】

第38週の報告数は24人で、定点当たりの報告数は3.00でした。地区別では、県南地区（8.00）、西彼地区（7.00）は他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。

本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。

長崎県では、2025年第38週にSFTSおよび日本紅斑熱の報告が1件ずつありました。

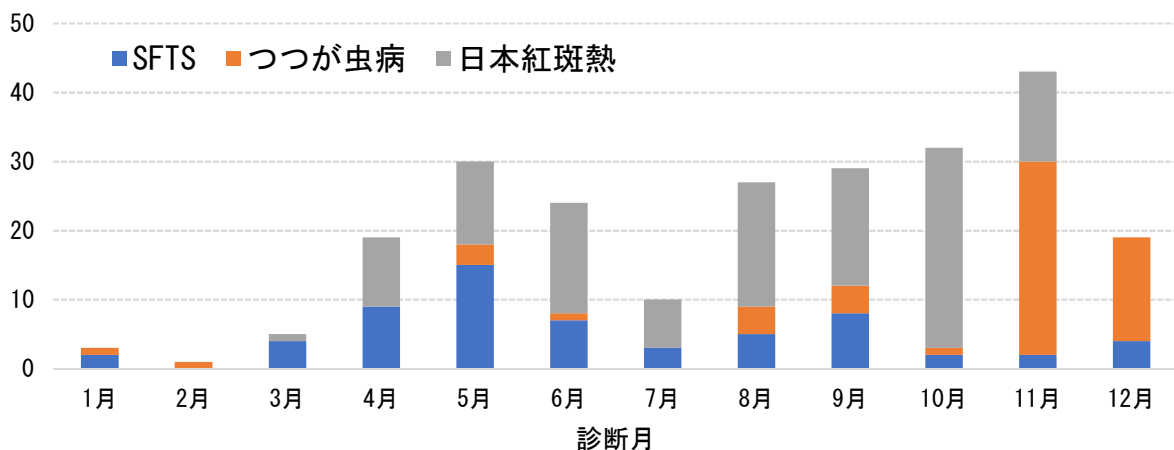
過去5年の県内の発生状況を見ると、10月に日本紅斑熱、11月につつが虫病的報告が最も多くなっています。ダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (6)	6 (6)	6 (9)	13 (9)	13 (11)	10
日本紅斑熱	18 (7)	28 (17)	22 (5)	14 (11)	23 (15)	17
つつが虫病	11 (1)	14 (4)	7 (0)	15 (5)	11 (2)	0

※（ ）は第38週までの発生件数

(件) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別患者報告数（2020年～）

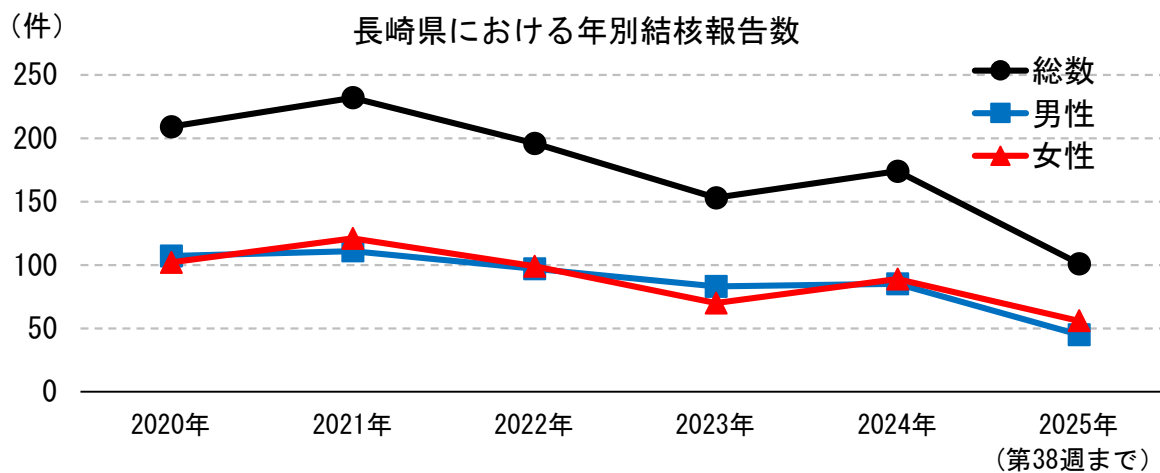


☆トピックス：9月24日から9月30日は結核・呼吸器感染症予防週間です

厚生労働省では、9月24日～30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定め、結核と呼吸器感染症に関する正しい知識の普及啓発を図ることとしています。

結核は、結核菌の感染により起こる感染症で、咳、喀痰、微熱が典型的とされており、胸痛、呼吸困難、血痰、全身倦怠感、食欲不振等を伴うこともありますが、無症状の場合もあります。結核を発症した人がせきやくしゃみをする、飛沫（しぶき）に含まれる結核菌が空気中で飛び散り、それを他の人が吸い込むことにより「感染」します。長崎県では、人口10万人当たりの結核罹患率が例年全国ワースト10位に入っており、2024年も「9.6」で、全国平均「8.1」より多くなっています。結核は、早期発見・早期治療が重要です。咳や痰、微熱、体のだるさなどの症状が2週間以上続く場合は、医療機関を受診しましょう。

呼吸器感染症には、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、RSウイルス感染症、細菌性肺炎などがあります。呼吸器感染症対策の基本は、手洗いやマスクの着用を含む咳エチケットです。秋、冬の呼吸器感染症の流行に備えて、感染予防に努めましょう。また、インフルエンザ等では、ワクチン接種により発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、かかりつけ医と相談のうえ、ワクチンを接種しましょう。



☆トピックス：RSウイルス感染症に注意しましょう

長崎県における2025年第38週の定点当たりの報告数は3.42で、前週より増加しました。地区別では、県南地区（12.33）が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

